
The World is Fairy Tale.

藤森優斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

The World is Fairy Tale.

【Nコード】

N6605K

【作者名】

藤森優斗

【あらすじ】

僕が書く単細胞で落書きの様な詩があなたの心に少しでも届きますように……。僕等が暮らす世界に少しでも届きますように。

April fool

好きな女の子にフラれたけど、今日はエープリルフルだし
深くついた傷の上に絆創膏を貼るとしよう

嘘が許される今日だから

ねえ、神様。この終わりそうな世界を
どうか僕等に嘘だと言ってくれ……。

母が首を吊っていたけど、今日はエープリルフルだし
真っ白な心の中に照る黒い光に縋ろう

嘘が許される今日だから

ねえ、神様。この狂いすぎた世界を
どうか僕等に嘘だと言ってくれ……。

前髪で隠した世界

僕が見てるのは暗闇の中の理想の世界だ
前髪で隠した世界

隙間から見える景色が真実の光を放つ

その世界が怖いんだ

だから嘘だと言ってくれ……。

嘘が許される今日だから

ねえ、神様。真実を照らす世界を
どうか僕等に嘘だと言ってくれ……。

エープリルフル、世界が嘘だと言ってくれ

エープリルフール、世界が嘘だと言ってくれ

ファンタジー

おとぎ話の様に僕等が見る偽物の世界はメルヘンチック
真実を都合が良い様に変えてしまう僕等の魔法

恋愛小説の様に僕等が見る偽物の世界はロマンチック
愛情をその場に応じて変換させる僕等の魔法

信じる物事が少ない分
認める物事には情が湧く
そして僕等は騙される

『生活』という『戦争』が繰り広げられる世界
それは都合が悪い物事だから見ない
なんてファンタジー、僕等の魔法

文学小説の様に僕等が見ない真実の世界はドメスティック・バイオ
レンス

『平和』って言葉が転がる分
『殺戮』という言葉が姿を出す
そして僕等は殺される

『生活』という『戦争』が繰り広げられる世界
語らない真実は穴に埋めて見ない
なんてファンタジー、僕等の魔法

『世界が平和でありますように』と作文を書いた小学生
『世界が平和でありますように』と心から思う戦場の子供

僕等の世界はメルヘンチックでロマンチック
その手を退けて、魔法が解けた世界を見よう

『生活』という『戦争』が繰り広げられる世界
生命に捧げる偽物の恩の唄
なんてファンタジー、僕等の魔法

世界を誤魔化す僕等の魔法
平和を裏切る生活、ファンタジー

魔法を信じる世界

青い夜の中に光る、蜂蜜色のお月様

どうか、このまま夜が明けないでくれ……。

眩しい朝が幻でも、手首の傷は治らない

どうか、このまま終わりをを見せてくれ……。

魔法にかけられた世界が赤く染まっていく

花は姿を茶色に変えて、虫は干からびる

僕等だけは命の灯を燃やして

なのに、一番に『終わり』を求めている

古い病院の一室、点滴のメトロノーム

止まったリズムを知っても

僕等はどうして驚かないのだろう

どうして何も感じないのだろう

白い夜に出会えても、黒い朝には会いたくない

眠れない夜はどうすれば、朝と出会わないのだろう

魔法にかけられた世界が赤く染まっていく

青かった空は灰色に、動物達は干からびる

僕等だけは命の灯を燃やして

なのに、一番に『死』を求めている

世界が赤く染まった夜

黒い朝を迎えない方法は『終わる』事だと

世界が赤く染まった夜

白い朝を迎える方法は『始める』事だと

魔法にかけられた世界から聞いた

最後の人生論らしい

Girls Killed me

冷たい冬の空、コーンポタージュの缶を両手で抱える少女
綺麗な星空に向け「みんな死ねばいい……」と呟いた

ギャップのある姿に僕は惚れていた
今にも消えそうな背中を眺めていた

厳しい時代の中、両親の離婚にも慣れてしまった少女
気弱な僕に向け「愛情なんてゴミね」と呟いた

夢の無い言葉が僕の心臓に響いた
夢にも見た死んだ目に僕は惚れていた

狂ってるのは彼女なのか、それとも世界なのか
選択肢なんて要らない。僕は迷わず世界を恨むよ
僕だって友達がいない居場所が無い
彼女だって希望が無く居場所が無い

似た姿に惚れていた
共に世界を恨む覚悟は出来ている

Girls killed me.
共に居場所が無い僕等、まるで一心同体の様で……。
Girls killed me.

自殺願望を抱える僕等、まるで一心同体の様で……。

冷たい冬の空、「死にたい……」と言った少女は何処かに消えた
居場所が無い僕を残して、世界を恨んだ僕を残して……。

G i r l s k i l l e d m e

一人居場所が無い僕は、殺された腐乱死体の様で……。

G i r l s k i l l e d m e

自殺願望を抱える僕は、彼女に殺された心を持って

今日も一人、世界を恨む

居場所が無い世界を恨むよ……。

旅立ちと共に

明日の午前五時の始発、僕はその列車に乗って街を出るよ
寂しいって思うけど、皆はどんな気持ちでいてくれるんだい？

小学生の時のイジメ、中学時代の居場所が無い孤独感
その全て心のバッグに詰め込んで、僕はこの街を去るよ

自ら鍵を掛けた、部屋の中で一人きり
すぐ隣にあるのに遠い場所を目指してみたい

明日の午後を過ぎれば僕はこの街から離れて走ってるかな
どうしても僕を認めてくれない世界から逃げ出したいよ……。

自ら鍵を掛けた、部屋の中で一人きり
自殺願望も倦怠感も抱えて僕はいく

病んじやって、嫌になって、死んじやいたって思ったって
泣いちゃって、嫌になって、死んじやいたって思ったって

『助けて』と叫びたいのに、言葉は引っ込み思案で出て来ない
カラッポな僕なのに何も無いはずの身体の何処かに
希望がまだいるみたいだ……。

自ら鍵を掛けた、部屋の中から出よう
自殺願望も倦怠感も抱えて僕はいく

旅立ちと共に頼りない希望を頼っていく
そのくらいで十分だよ

生きる為の原動力なんてさ

The world in the box.

テレビが伝える毎日のニュース

行方不明の女子高生なんて見慣れたよ

そんな事よりも膝を抱えた僕を救う方法を教えてください

『世界』が狭すぎるのですか？

『僕の世界』は一畳程度だよ

The world in the box.

Light does not shine here.

In the world small as for me and you.

(箱の中の世界。此处は光が輝かないよ。僕と君は小さな世界の中にいる。)

ラジオで流れる恋うた。テレビで流れる恋うた。聞き飽きたよ。

そんな歌よりも僕達が世界に生きる事を肯定するラブソングをください

『世界』が汚れてるのですか？

『僕の世界』は景色が濁むよ

The world in the box.

Light does not shine here.

In the world small as for me and you.

（箱の中の世界。此処は光が輝かないよ。僕と君は小さな世界の中にいる。）

希望が見え隠れしてるから、僕は膝を抱えても箱の中で生きている
此処は狭くて寂しいよ。でも世界は怖いんだ。丁度いい居場所はないの？

光が見たい。僕は世界に求めてるよ

先が見えない景色に少しの希望を投げ捨てて
光が見たい。僕は世界に生きてるよ

息が白い事実から拾い集めた人生論さ

The world in the box.

光が当たらないなんて証明されてないだろ？

The world in the box.

自分で決めたルールに殺されてちゃ駄目だろ

The world in the box.

此処にこそ、光あれ

The world in the box.

一畳の世界、膝を伸ばそう

シナリオライター

夢と現実を線で結ぶ様な運命の物語
天に生涯の恩を、線に感性の念を
本を書く、天性のシナリオライター

嘘と真実を線で結ぶ様な概念の物語
天に実像の愛を、線に虚像の恋を
本を書く、天性のシナリオライター

未来を書いて、執筆の光を
全ての希望と絶望を描いて、執筆の光を

今と過去を線で結ぶ様な曖昧な物語
天に完成の恩を、線に不覚の真を
本を書く、天性のシナリオライター

過去を欠いて、執筆の闇を
全ての平和と戦争を描いて、執筆の闇を

光のペンで裏切る世界へのラブレターを執筆
光のペンで揺らぐ世界へのラブレターを執筆

希望を書いて、執筆の光を
全ての愛と平和を描いて、執筆の光を

絶望を書いて、執筆の光を
全ての愛と世界を描いて、執筆の光を

天性のシナリオライター
線で結ぶ執筆の光を
天性のシナリオライター
線で結ぶ執筆の光を

親愛なる仲間達へ

同じ時代に生まれて運命の様に出会えた僕達
とても素晴らしい事だろ？ 泣けてくるよ

同じクラスになれたなら本当に運命の様な僕達
とても素晴らしい事だろ？ 仲良くなろうよ

そんな事をみんな最初は思うんだろ
でも僕は……。僕は仲間外れさ

ああ、中学時代に僕をイジメた君達へ
ああ、上辺だけの笑顔をくれた君達へ

同じ授業を受けて共に将来を悩んだ僕達
とても輝かしい青春だろ？ 思い出語ろうよ

こんな奴は何処に行っても駄目だろ
なあ僕は……。僕はどうすればいい？

ああ、友達という鎖を繋いでくれた君達へ
ああ、友達という嘘を張り付けた君達へ

みんなが楽しそうにすれば、僕は比例して暗くなるよ
夢の中なら何度も君達を殺してしまったんだ

それでも僕は警察に捕まらないよ
それでも僕は明日も夢を見るよ

ああ、友達という絆を縛り付けた君達へ

ああ、友達という偽りの線を通った君達へ

ああ、僕に笑顔を向ける親愛なる仲間達へ

ああ、僕に友情を垂らす親愛なる仲間達へ

もう、僕を騙さないでくれよ……。

もう、僕の心を殺さないでくれよ……。

綺麗な名前

何億という人混みの中で素晴らしく輝く光
何億として時代の流れ、素晴らしく輝く光

同じものは有るのに、同じ者は一つも無くて
違う者の中からも、正しい者が見つかって

生まれた時、涙と共に
媚びれ付いた美しい光

あなたが貰った名前の意味は一つだけの花言葉
幾つもの愛情を受け継いで、汚れた世界に
君は今生きている

二人が繋がる先に『愛』の姿が無くても
あなたが生まれた時に『愛』がその場にいらなくても

生命の誕生とは、偽りが無い
隠し持った美しい『愛』だ

あなたが貰った名前の意味は一つだけの花言葉
語り合う愛があって、偽りも無く
僕は今生きている

その名を呼べば、君は振り向く
この名を呼べば、僕は振り向く

寂しい夜があったなら、苦しい朝があったなら

その名を呼べば、この名を呼べば

手元には美しい光

絶望を溶け込ませた素晴らしい希望

あなたが貰った名前の意味は一つだけの花言葉
幾つもの愛情を受け継いで、汚れた世界に
君は今、自分の足で立つ

あなたが貰った名前の意味は一つだけの花言葉
語り合う愛があつて、偽りも無く
僕は今生きている、君は今生きている

何億の中で輝く

綺麗な名前で生きている

魔法が解けてしまった僕

子供の頃は読めなかった最上段の本の事
今じゃ鉄棒なんて跨げる様になった事
必死になって解けなかった引き算が解ける事
夏休みに作った風見鶏は捨てちゃった事

歳を重ねて無くしたモノ
想像以上にあるみたいだ

いつも優しく笑っていた母さんは温かい事
酒を飲んでは酔っ払う父さんも温かい事
彼女への愛しい想いは魔法の様に思えた事
何気ない出来事でも夢中になって笑えた事

歳を重ねて気付いたモノ
想像以上にあるみたいだ

背が伸びるに連れて見える景色は広くなったけど
背が伸びるに連れて見えた世界は賛否両論だ

大人になって最上段の本を昨日読破した事
星空が綺麗だと門限を無視して知った事
ヒーローになって世界を救えると本気で思ってた事
大人になれば強くなれると本当に信じていた事

歳を重ねて解けた魔法
空想の世界なんて死んだ

いつも優しく笑っていた母さんはもう冷たい事
酒を飲んでは酔っ払う父さんは病院にいる事
彼女への愛しい想いは心と共に死んだ事

何気ない出来事にも嫌気が差したと知った事

歳を重ねて背負ったモノ

想像以上に苦しい世界

背が伸びるに連れて魔法が解けてしまった僕等
背が伸びるに連れて魔法を信じなくなった僕等

子供の頃と変わらない僕が少しでもいるのかな……。
大人になって強くなった僕が此処にいるのかな……。

永遠に響く鐘のように

殺人事件にも驚かない無関心な現代に
結婚式の鐘の様に、鳴り響く音がある
テロリストでも戦争映画で涙を流す
死刑囚の願いの様に、鳴り響く音がある

正常な精神なんか無くした世界なのに
どうして、堕ちても生きる僕等がいるのか

それは、今も此処であの名曲が永遠の鐘の様に鳴り響いているから
腐っても、狂っても、疲れた僕等の心が死んでしまう事を許さない

そんなブルース

そんなロックンロール

そんな名曲達が響いている

スクランブル交差点の大画面から流れるラブソングなんか
世界には響かない、戦争中の僕等の心には響かないよ
もっと、もっと、もっと、平和と向き合う讃歌を、僕等を救う讃歌を
生命が繰り広げる戦争の終焉を知らせる様なラブソングを

僕等は聴きたいんだ

この世界は聴きたいんだ

それは、過去に僕を助けた様な正面から生命を肯定してくれる名曲で
何十年も、何百年も、この先永遠に鳴り響く名曲達だ

そんなブルース

そんなロックンロール

そんな名曲達が聴きたいんだ

僕等はその名曲が聴きたいんだ

世界にその名曲を聴かせたいんだ

虹色の世界

赤色の世界、僕をイジメた君達が血を流す夢の中
青色の世界、僕を嫌った彼女を想い、膝を抱える

被爆した心のままで

僕は『生活』の『戦争』を続ける

黄色の世界、僕が願う幸福が首を絞める月の下

緑色の世界、僕を取り囲む森林の優しさが燃やされる

自爆した心の残り火で

僕は『平和』の『殺戮』を続ける

橙色の世界、僕を陥れるポップな彼女の笑顔

紫色の世界、僕が望む世界の終わりを飾る空

藍色の世界、僕の『戦争』が『平和』を迎える、『愛』色の世界

僕等が過ごす七色の日々

『生活』と名付けられた『戦争』の世界

僕等が過ごす七色の日々

『平和』と名付けられた『殺戮』の世界

他殺され死んだ心のままで

僕等が染める『虹色の世界』

自殺して死んだ心のままで

僕等が染める『虹色の世界』

眠るべき生命の美学

子供の頃に知った魔法、今じゃ科学で証明出来ると知った
亡くした彼女も冷めた心も、元通りにならない、帰ってこない

幻になった想いは真実でも幻となる

あまりにも儚い夢物語、嘘でも幻となる

彼女に貰った絶望、今じゃ希望となっているって事

伝え様がない現実と知って、泣きはしない、淋しくはない

幻になった彼女の体温は少しも残っていない

何も感じない真実がどうしても許せない

息が続くのが嫌だ、人がいる事が怖いのだ

どうしようもない事じゃないか、でもいつか終わるのだ

『戦争』と呼んで苦しむのは、『殺戮』と知って嫌がるのは
どうしようもない僕じゃないか、でもいつか終わるのだ

全てが息を止めるのだ

それはどうしようもない事だ

世界の終わりを叶えるのも望むのも間違いなく人類なのに
僕等は夢を見るよ、『平和』という死語を使って

世界の終わりを止めるのも拒むのも間違いなく人類なのに
僕等は今を見るよ、『戦争』という死語を用いて

眠るべきは僕達だ

それでも肯定されようと必死になる美学
眠るべきは僕達だ

それでも『世界平和』と旗を掲げる美学

子供の頃に知った魔法

今も解けない、生命の美学がある

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6605k/>

The World is Fairy Tale.

2010年10月11日19時57分発行